PRESS RELEASE
2018年11月
報道関係各位
プレスリリース

中之島 香雪美術館
Nakanoshima Kosetsu Museum of Art

中之島香雪美術館開館記念展
「珠玉の村山コレクション～愛し、守り、伝えた～」

Ⅴ 物語とうたにあそぶ　2018年12月15日（土）～2019年2月11日（月・祝）

公益財団法人香雪美術館は2018年3月21日、大阪・中之島の超高層ビル「中之島フェスティバルタワー・ウエスト」4階に、中之島香雪美術館を開館しました。

香雪美術館は、朝日新聞社の創業者である村山龍平(1850～1933)の収集した日本と東アジアの古い時代の美術品を所蔵しています。開館45周年を記念し、神戸・御影の本館に次ぐ2番目の美術館を大阪に開設して、コレクションのさらなる公開と普及を進めることとなりました。

開館から1年間は、開館記念展「珠玉の村山コレクション～愛し、守り、伝えた～」を開催。村山が収集した美術品から、重要文化財をはじめとする選りすぐりの作品300点余りを5期にわけてテーマ別に展示し、コレクションの全容を紹介します。都心のビル内にありながら「市中の山居」を目指した、静謐で格調ある新しい美術館の空間で、珠玉のコレクションをお楽しみください。

第Ⅰ期展「美術を愛して」、第Ⅱ期展「美しき金に心をよせて」、第Ⅲ期展「茶の道にみちびかれ」、第Ⅳ期展「ほとけの世界にたゆたう」に続き、12月15日からは、開館記念展の最後となる第Ⅴ期展「物語とうたにあそぶ」がスタートします。

中之島香雪美術館

Ⅰ　美術を愛して	2018年3月21日（水・祝）～4月22日（日）
Ⅱ　美しき金に心をよせて	2018年4月28日（土）～6月24日（日）
Ⅲ　茶の道にみちびかれ	2018年7月7日（土）～9月2日（日）
Ⅳ　ほとけの世界にたゆたう	2018年10月6日（土）～12月2日（日）
Ⅴ　物語とうたにあそぶ	2018年12月15日（土）～2019年2月11日（月・祝）

※毎週月曜休館(祝日の場合は翌火曜日)
　年末年始 2018年12月29日(土)～2019年1月7日(月) 休館

会場　中之島香雪美術館（大阪市北区中之島3-2-4、中之島フェスティバルタワー・ウエスト4階）
主催　公益財団法人香雪美術館、朝日新聞社、朝日放送テレビ

中之島 香雪美術館
Nakanoshima Kosetsu Museum of Art

中之島香雪美術館開館記念展
「珠玉の村山コレクション～愛し、守り、伝えた～」

V 物語とうたにあそぶ

村山龍平の美術品収集の中心は、刀剣、茶道具、仏教美術ですが、「物語」や「うた」を主題とすることの多い「やまと絵」もコレクションに彩りを添えています。

龍平は、中世から近代までのやまと絵を丁寧に収集しています。明治42年(1909)には、やまと絵を大きく取り上げた「大和絵特別陳列」が京都帝室博物館(現京都国立博物館)で行われました。龍平はその展示に所蔵品を3点出品するなど、研究や普及に積極的な姿勢も見られます。

本展では、「物語」と「うた」を主題とする絵画や書、工芸品を展示します。明治32年(1899)の美術雑誌『國華』に1図だけ掲載されて以来の紹介となる「伊勢物語図色紙」(全17図)、初公開の「源氏系図」、浦島太郎の絵巻など、村山コレクションの知られざる一面をお楽しみください。

会　　期	2018 年 12 月 15 日 (土) ～ 2019 年 2 月 11 日 (月・祝) 月曜休館 (祝日の場合は翌火曜日) 前期：12 月 15 日 (土) ～ 2019 年 1 月 14 日 (日) 後期：2019 年 1 月 16 日 (火) ～ 2 月 11 日 (月・祝)
開館時間	午前 10 時～午後 5 時（入館は午後 4 時 30 分まで）
料　　金	一般 900(700) 円、高大生 500(350) 円、小中生 200(100) 円 ＊( ) 内は前売り（一般のみ）、20 名以上の団体料金 ＊前売り券は 12 月 14 日まで香雪美術館 (御影本館)、中之島香雪美術館、フェスティバルホール・チケットセンターで販売しています。
主　　催	公益財団法人香雪美術館、朝日新聞社、朝日放送テレビ

＊開館記念展 (Ⅰ～Ⅴ期) の主要作品 180 点のカラー図版と解説を収録した図録をミュージアムショップで販売。1 部 2,500 円 (税込)。

V期のみどころ

初公開「源氏系図」

『源氏物語』の作中人物について、略歴を付けて家系をまとめたものです。表紙絵は、石山寺に籠っていた紫式部が源氏物語の構想を思い付く場面です。本作に類似する表紙絵が描かれた『源氏物語』の写本として、出光美術館と天理図書館所蔵品が知られています。この筆者が、宮廷絵所預（宮廷の御用を務める絵師）であった土佐光信（1434?～1525?）と考えられていることから、本作もその写本か、光信周辺で制作された同種の源氏物語に附属していた系図と推測されます。

A「源氏系図」(室町時代、16世紀)

全17枚を初公開「伊勢物語図色紙」

平安時代の初めごろに成立した『伊勢物語』は、後世の物語や詩歌に大きな影響を与えました。早くから絵画化されており、濃彩では鎌倉時代末期の制作とされる和泉市久保惣記念美術館所蔵の「伊勢物語絵巻」が最も古いものとして知られています。村山コレクションの「伊勢物語図色紙」は、それに続く伊勢物語絵の優品です。全17枚は色紙という小さな画面に関わらず、驚くほど細密な描写です。また、これまで知られていない図様の段も見られ、『伊勢物語』研究においても注目されます。

※期間中、展示替えがあります。

B「伊勢物語図色紙　第五段 - 関守」(室町時代、15世紀)
前期:12月15日～2019年1月14日

C「伊勢物語図色紙　第二十三段 - 筒井筒」
(室町時代、15世紀)　前期:12月15日～2019年1月14日

D「伊勢物語図色紙　第四十九段 - 若草の妹」
(室町時代、15世紀)　後期:2019年1月16日～2月11日

様々な物語絵

物語は、見聞や想像をもとに出来事を言葉によって表すものです。物語を受け取る我々は、それらの言葉から具体的な場面や登場人物を想像して楽しみます。そうしたイメージは絵画化され、「かたち」となった物語はより身近なものとなりました。同じ物語でも、絵師や注文主の捉え方や趣向によって変化します。物語から生み出されたイメージが、どのように表されたのか、『源氏物語』『伊勢物語』『浦島物語』など、さまざまな物語絵からたどります。

うたと歌人

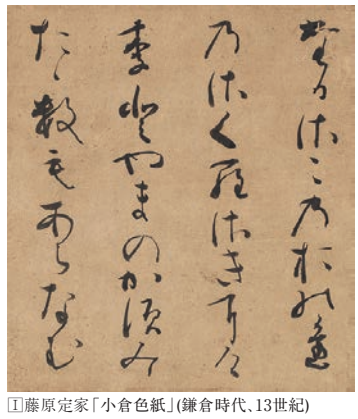
遥か昔に詠まれたうた（和歌）を、私たちが知ることができるのは、色紙や巻物、冊子などに記録され伝わったためです。記録されたうたは、歌集として広まることもあれば、歌人の筆跡として鑑賞の対象ともなりました。歌人や能書家による流麗な筆跡や料紙装飾は、その美しさだけでなく、うた自体の魅力を際立たせています。また、優れたうたを生み出す歌人は、人々にとって憧れであり、崇敬の対象ともなりました。『古今和歌集』で取り上げられた六歌仙や、藤原公任が選びだした三十六歌仙は、その和歌と肖像が描かれた歌仙絵として人々に広まりました。

Ⓔ池田孤村「赤染衛門百人一首歌意図」(江戸時代、19世紀)

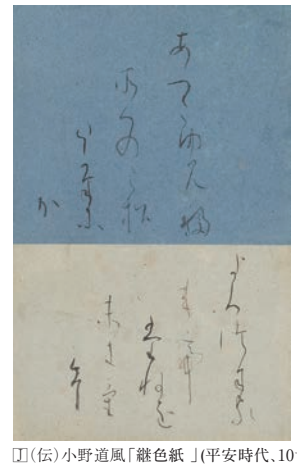
Ⓕ岩佐又兵衛「堀江物語絵巻　上巻(部分)」(江戸時代、17世紀) 前期:12月15日～2019年1月14日

Ⓖ岩佐又兵衛「堀江物語絵巻　下巻(部分)」(江戸時代、17世紀) 後期:2019年1月16日～2月11日

H「浦島物語絵巻」(江戸時代、17世紀)　前期・後期で場面替えあり



I藤原定家「小倉色紙」(鎌倉時代、13世紀)



J(伝)小野道風「継色紙 」(平安時代、10世紀)

主な出展作品

記号	指 定	作者・生産地	作　品　名	時　代	展示期間
A			源氏系図	室町時代、16世紀	全期間
B			伊勢物語図色紙　第五段 - 関守	室町時代、15世紀	前期：12月15日～2019年1月14日
C			伊勢物語図色紙　第二十三段 - 筒井筒	室町時代、15世紀	前期：12月15日～2019年1月14日
D			伊勢物語図色紙　第四十九段 - 若草の妹	室町時代、15世紀	後期：2019年1月16日～2月11日
E		池田孤村	赤染衛門百人一首歌意図	江戸時代、19世紀	全期間
F		岩佐又兵衛	堀江物語絵巻　上巻（部分）	江戸時代、17世紀	前期：12月15日～2019年1月14日
G		岩佐又兵衛	堀江物語絵巻　下巻（部分）	江戸時代、17世紀	後期：2019年1月16日～2月11日
H			浦島物語絵巻	江戸時代、17世紀	前期・後期で場面替えあり
I		藤原定家	小倉色紙	鎌倉時代、13世紀	全期間
J		(伝)小野道風	継色紙	平安時代、10世紀	全期間

※記号欄(A～J)は貸出写真記号

美に寄せる想い――村山龍平記念室（常設展示）

村山龍平

中之島香雪美術館では、村山龍平の生涯を紹介する常設展示「村山龍平記念室」を設けています。村山の足跡を大型年表や解説パネル、映像などでたどるほか、貴重な展示品や再現展示をおりまぜ、村山の美への想いを立体的に感じとれる構成となっています。

みどころは、神戸・御影の香雪美術館本館敷地内にある「旧村山家住宅」紹介コーナー。洋館、和館、茶室棟（玄庵）などの建物と庭園からなる広壮な邸宅は、有力財界人が住まう関西屈指の高級住宅地として発展した御影にあって、明治・大正時代の姿をいまなおとどめる貴重な作例として、国の重要文化財に指定されています。

洋館の河合幾次、和館書院棟の藤井厚二ら、当時屈指の建築家が腕を振るった建物には、施主である村山自身の意向も随所に色濃く反映され、美を愛した村山の姿を彷彿とさせます。常設展示では、全景ジオラマ模型や映像で邸宅の全容を紹介するほか、洋館2階の居間を再現展示。豪壮な洋室に竹をあしらった和風意匠の家具・調度を置くというユニークな空間構成は、村山の好みによるものでしょう。洋館の内装全体を担当した小林義雄は、日本のインテリアデザイナーの草分けとして知られ、1階食堂の椅子の背に貼られた「MADE EXPRESSLY BY YOSHIO KOBAYASHI（小林義雄謹製）」のプレートからは、小林にとっても特別な仕事であったことがうかがえます。

旧村山家住宅

村山龍平記念室　洋館2階居間の再現

國華　創刊号表紙

村山龍平と美術との関わりでは、『國華』特集展示コーナーも見逃せません。明治22年（1889）、岡倉天心らが創刊した『國華』は、現在も刊行を続ける美術雑誌として世界最古の歴史を誇ります。「夫レ美術ハ國ノ精華ナリ」と日本美術の復興を目指し、精巧な木版口絵や最先端のコロタイプ印刷を贅沢に使用した雑誌でしたが、すぐに行き詰まり、朝日新聞社の共同経営者で東洋美術への造詣の深い村山龍平と上野理一が全面的に経営支援することとなりました。ことに村山の『國華』への愛着は深く、新たに収集した美術品は同誌上でたびたび紹介されており、開館記念展でもその一部を展示します。

中之島玄庵～再現プロジェクト～

中之島香雪美術館の茶室展示室である「中之島玄庵」は、旧村山家住宅(神戸・御影)に建つ国指定重要文化財の茶室「玄庵」を、原寸大で正確に再現してあります。茅葺き屋根、土壁、柱など、本物と同じ材料を使い、伝統的な技法で造りました。建物の周りの「露地」についても、できる限り忠実に仕上げています。

御影の「玄庵」はもともと、藪内流家元の茶室「燕庵」(重要文化財)の忠実な「写し」です。茶の湯の世界では、この関係を「本歌」と「写し」と呼び、家元の相伝にかかわる厳粛な行為です。さらにその「写し」である中之島玄庵もまた、古田織部好みの様式を伝える貴重な茶室建築といえます。

展示にあたっては、茶室正面の土壁部分を取り外せるように造作しており、本来、外部からはうかがいにくい茶室内部の空間を、見やすく工夫しています。古田織部好みの三畳台目に相伴席の付いた間取り、十一カ所ある明かり取りの窓、三十種類余りの天然の木材など、この茶室に凝縮した茶の湯の美意識が、手に取るように感じられます。

また、茶室を囲む壁面上部には、御影の四季の風景をＣＧ加工した映像を映し出し、自然の移ろいの中で変化する茶室の様子を楽しんでいただけます。

この再現プロジェクトは、京都伝統建築技術協会理事長で京都工芸繊維大学名誉教授の中村昌生氏が設計・監修し、元禄年間創業の安井杢工務店が建てました。露地は中根庭園研究所が監修しています。「玄庵」の実測調査から材料の選定・加工、組み立てにはじまり、茅葺き、土壁の仕上げなど、プロジェクトの過程を紹介する映像も展示室で見られます。

茶室「中之島玄庵」

茶室「中之島玄庵」内部

報道関係のお問い合わせ

「中之島香雪美術館」　担当:日置(ひおき)

TEL 06-6210-3633　FAX 06-6210-4190　Email n-kouhou@kosetsu-museum.or.jp

〒530-0005 大阪市北区中之島3-2-4　中之島フェスティバルタワー・ウエスト 4階

FAX: 06-6210-4190

取材・写真使用申込書

中之島香雪美術館
Nakanoshima Kosetsu Museum of Art

（西暦）　　年　　月　　日

取材について

取材者	フリガナ 会社名 住所　〒 E-mail	フリガナ 担当者名（連絡者） TEL FAX 取材人数　　名
取材希望日時	（西暦）　年　月　日　時　分 ～　時　分	
媒体	種別　□テレビ　□ラジオ　□新聞　□雑誌　□その他（　　） 番組名・コーナー名	
放送・発行日等	（西暦）　年　月　日　時　分 ～　時　分	
取材の範囲	撮影　□す る（撮影機材　□スチール　□ENG　□DVC） □しない	
備考 特に取材したい場所・内容等		

写真使用について

プレス用写真一覧をご確認の上、希望画像番号をご明記ください。

開館記念展 作品画像		中之島香雪美術館 館内画像	
中之島香雪美術館 資料画像		ロゴ画像	

注意事項

企画書など概要がわかる書類の提出をお願いいたします。
原稿および記事については貴メディアへ御掲載前に中之島香雪美術館広報担当宛に確認のためお送りくださいますようお願いいたします。掲載後は掲載誌等の送付をお願いしております。

申込先

「中之島香雪美術館」　担当:日置（ひおき）
TEL 06-6210-3633　FAX 06-6210-4190　Email n-kouhou@kosetsu-museum.or.jp
〒530-0005 大阪市北区中之島3-2-4　中之島フェスティバルタワー・ウエスト 4階